

## 船舶事故調査報告書

令和3年10月6日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 佐藤 雄二（部会長）

委員 田村 兼吉

委員 岡本 満喜子

事故種類	乗揚
発生日時	令和2年9月30日11時20分ごろ
発生場所	愛知県南知多町日間賀島南方沖 日間賀港第6号防波堤灯台から真方位160°370m付近 (概位 北緯34°42.0′ 東経136°59.9′)
事故の概要	プレジャーボートアンタレスは、航行中、浅所に乗り揚げた。 アンタレスは、アウトドライブユニットの脱落を生じた。
事故調査の経過	令和2年10月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート アンタレス、3.8トン 240-61489愛知、株式会社ユニマツプレシャス 7.07m (Lr) × 2.54m × 0.95m、軽合金 ディーゼル機関、124.0kW、平成20年7月
乗組員等に関する情報	船長 53歳 二級小型船舶操縦士 免許登録日 令和2年8月27日 免許証交付日 令和2年8月27日 (令和7年8月26日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	アウトドライブユニットが脱落
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風速 約1m/s、視界 良好 海象：波高 約0.2m、潮汐 ほぼ低潮期、潮高 約232cm（鳥羽港）
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者9人を乗せ、三河湾内のクルージングをする目的で、令和2年9月30日10時05分ごろ、愛知県豊川市三河港所在のマリーナ（以下「本件マリーナ」という。）を出発した。 11時00分ごろ、船長は、クルージングの予定を変更し、愛知県南知多町日間賀島において昼食を取るため、日間賀島西港に向かうこととし、同島南方を約10ノット（kn）の対地速力で西南西進した

	<p>後、11時19分ごろ、同島の常ノ鼻南方で右転して北西進したところ、11時20分ごろ浅所（以下「本件浅所」という。）に乗り揚げた。</p> <p>本船は、船長が、乗り揚げ後操縦不能となったことから、本件マリナーに救助を要請し、同マリナーから海上保安庁及びボートレスキューサービス(Boat Assistance Network、以下「BAN」という。)に通報及び救助要請が行われた。</p> <p>全員がBANの救助艇4隻に救助され、船長以外の同乗者9名は、BANの救助艇により日間賀島に運ばれた。船長は、救助艇にえい航された本船とともに本件マリナーに帰港した。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図、写真1 本船、写真2 損傷箇所参照)</p>
その他の事項	<p>本船の喫水は、船首約0.5m、船尾約1.1mであった。</p> <p>本事故は、船長が、令和2年8月27日に小型船舶免許を取得して、今回の事故が2度目の航海時に発生した。</p> <p>船長は、日間賀島に入港して昼食をとるよう予定を変更したことで、レンタルボートの返却時刻に対する時間的余裕が少なくなったと感じており、少しでも航行時間を短縮しようとして同島の陸岸に近づいていた。</p> <p>船長は、本件浅所の存在を把握しておらず、予定を変更したあとの日間賀島南側周辺の水路調査が十分でなかったと事故後に思った。</p> <p>船長及び同乗者は、救命胴衣を着用していた。</p> <p>本船は、本件マリナーまでえい航された後、修理費用の関係で廃船処理された。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、日間賀島南方沖を航行中、船長が、日間賀島西港に入港する際、本件浅所の存在を知らずに同島陸岸に近づいて航行をしたことから、本件浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、日間賀島西港に入港するよう予定を変更した際、レンタルボートの返却時刻に対する時間的余裕がないと感じていたことから、航行時間を短縮しようとして同島陸岸に近づいて航行したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、日間賀島南方沖を航行中、船長が、本件浅所の存在を知らずに陸岸に近づいて航行したため、本件浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p>

- |  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 船長は、航行する海域の浅所の場所、潮汐等を事前に把握しておくこと、特に、航行時間を短縮しようとして陸岸に近づく場合は、必ず浅所の場所、潮汐等を事前に把握しておくこと。</li><li>・ 船長は、十分な時間的余裕のある航海計画を立てること。</li></ul> |
|--|--|

付図1 事故発生場所概略図

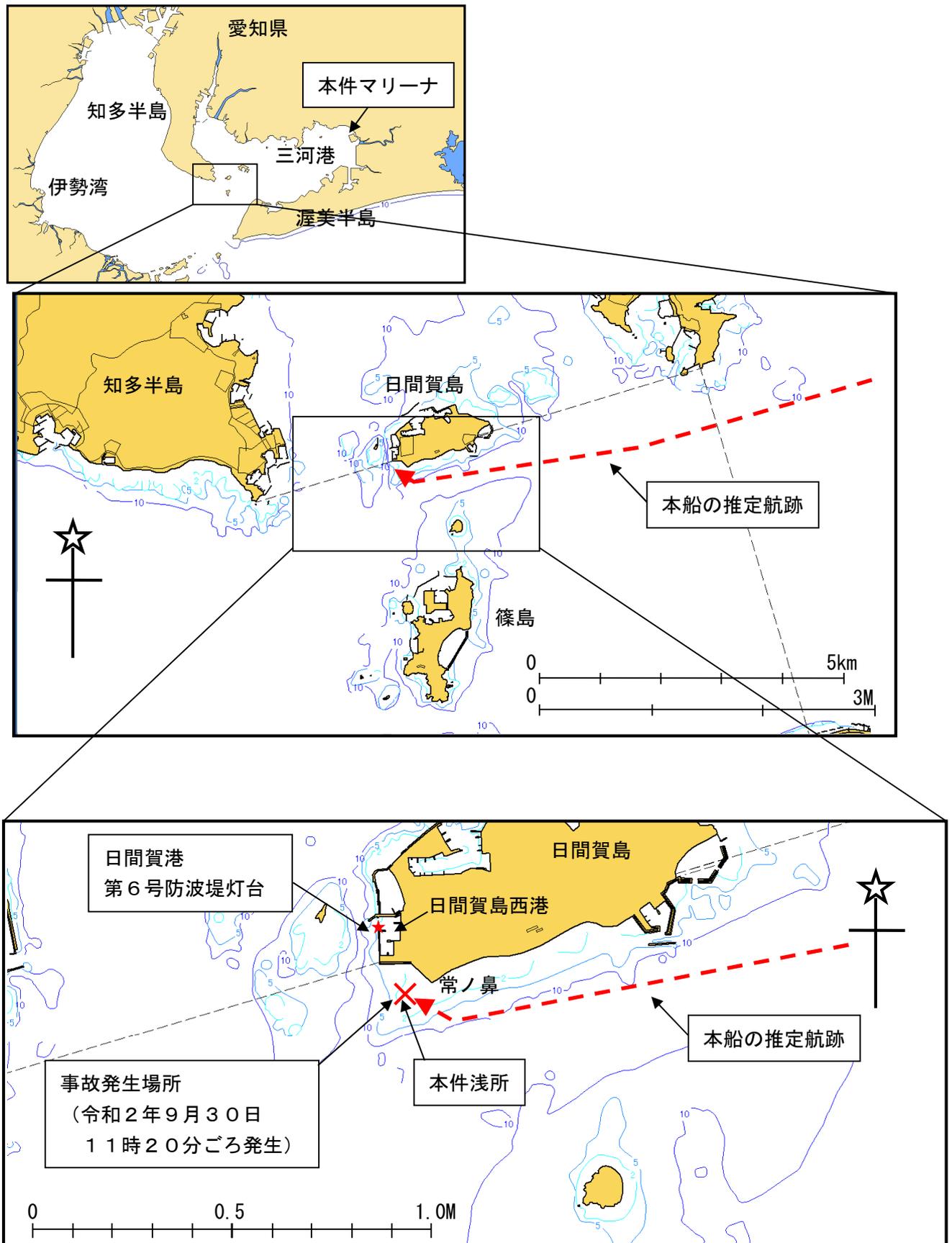


写真1 本船



写真2 損傷箇所

